想像する力

鶴居村教育委員会教育長　　村上　明寛

「つるいの子」第四二号が発刊されました。発刊に向けて、児童生徒へご指導いただいた先生方、並びに校務ご多忙の中、編集に当たっていただいた教育研究所の担当の先生方に心から感謝申し上げます。

さて、今、世の中にはたくさんの「対立」が存在します。世界に目を向けると、国、民族、イデオロギー、経済、軍事など様々で深刻な「対立」が存在します。また、国内にも、自治体にも、会社や学校にも、家族や友人の間であっても然りです。でも、その原因はというと、歴史やイデオロギーなどを背景とした大きく深刻なものは別として、会社や学校、家族や友人などの限られた集団の中では、ちょっとした言葉の行き違いや受け止め方の違い、間の悪さなどに端を発したものが多いのではないでしょうか。そして、そこに欠けているものは「想像する力」ではないでしょうか。

私は、作家の柳田邦男氏が示した若者たちへの八か条のメッセージを大切にしています。その八か条のうちの三点目に「他者の心情や考えを理解するように努める」、五点目には「適切な表現を身につける。自分の考えを他者に正確に理解してもらう（よう）努力（する）」とあります。いずれも、「想像する力」が必要です。相手がどう感じ、どう考えているのか。自分の態度が相手にどう映るのか。自分の言葉が相手にどう響くのか。そういったことを「想像する」ためには、想像することを習慣化し、無意識に想像できるよう日頃から積み上げていくことが肝心なのではないでしょうか。その点、「創る」ことはその「想像すること」の積み上げに大きく役立つのではないかと考えています。詩、川柳、作文、手紙をつくる（書く）過程には、日常の出来事への興味関心や感性を基にした「想像する力」が必要です。一遍の小さな詩から「想像する力」は大きく育っていくと思いますし、現代社会が最も重視するコミュニケーション能力の養成に繋がるものだと思います。

「つるいの子」の発刊の意義はそこにあると確信しています。

これからも、鶴居の子供たちが、「つるいの子」を通して「想像する力」を養い、豊かな人間性を備えた「鶴居びと」に成長することを期待しています。